IV. 普及・公開活動の記録

埋蔵文化財展

愛知県埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査により発見された資料を広く公開するとともに、講座や体験プログラムなどの企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした埋蔵文化財展を行っている。

2022年度は、春には愛知県埋蔵文化財調査センターと共催して新出土品展「やとみ新発見展"2022」と重要文化財の特別公開を行った。また、秋には『悠久の記憶～設楽ダム関連発掘調査成果展～』と題し、設楽町教育委員会、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所、愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室、愛知県埋蔵文化財調査センターと共催して設楽町奥三河郷土館で展示を行った。

春の埋蔵文化財展

1.会場　愛知県埋蔵文化財センター
2.会期　令和4年4月4日(月)~4月15日(金)まで
3.内容
○展示
2階収蔵庫C
「やとみ新発見展"2022」
2022年に本発掘調査Bを実施した13遺跡の出土遺物と写真パネル等を展示した。
「食と文化の考古学　煮炊きの道具の歴史」
2階資料管理閲覧室
「食と文化の考古学　石の道具の歴史」
○配布資料
「埋文桜ニュース」
遺跡の概要説明と本年度イベント案内及び同時開催の愛知県埋蔵文化財調査センター春の特別公開の展示解説を掲載した。
＊期間中配布部数：105部

4.考古学縁日
4月9日(土)・10日(日)に以下のワークショップを実施した。
「城わなげ」
愛知県の地図上に配置した、実在の城に擬した的に向かって輪投げを行ってもらい、その得点に応じて缶バッジを配布した。
＊参加者数：75名
「お宝記念撮影」
撮影台を用意し、これまでに調査した遺跡の出土遺物の優品を数点設置して来場者に自由に撮影してもらった。
「火起こしマスター」　＊参加者数：34名
5.その他
「やとみ新発見展"2022」開催中は、新型コロナウィルス感染症予防、緊急時の連絡及び入館者数把握のため、来館者にはアルコールによる手指の消毒と来館者カードへの記入を行ってもらった。
＊期間中来場者数：159名　　(河嶋優輝)

▲春の埋文展　チラシ

▲「埋文桜ニュース」

秋の埋蔵文化財展「悠久の記憶～設楽ダム関連発掘調査成果展～」

1.会場　設楽町奥三河郷土館２階　企画展示スペース

2.会期　令和４年8月31日（水）～9月26日（月）【来場者総数：2,418名】

3.実施体制

本事業では、設楽町との共催で実施したほか、事業者である国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所にも展示に参画して頂けたことは、これまでの埋蔵文化財展になかったことであり、画期的なものとなった。愛知県埋蔵文化財調査センターをも含めた実施体制は、下図左の通りである。

4.内容

今回の展示コンセプトは、以下の三本の柱に立脚している。

1.設楽ダム関連調査成果の紹介

2.埋蔵文化財調査過程・内容の紹介

3.埋蔵文化財調査記録の重要性と活用の紹介

上記に加えて、今回の展示は、令和３年度までに公表された発掘調査成果および室内整理調査の成果内容に限定したものであり、設楽ダム関連調査の報告としては、途中経過的な位置づけとなっている。それでも、笹平遺跡の調査成果を軸に、縄文時代から江戸時代までの調査成果を紹介する内容となっており、展示コンセプト１の目的はある程度達成することができている。展示コンセプト2・3に関しては、パネルや映像展示をも加えて紹介をしたところである。写真の起き上がり小法師も図面記録の活用の一環で製作した（下図最右下）。

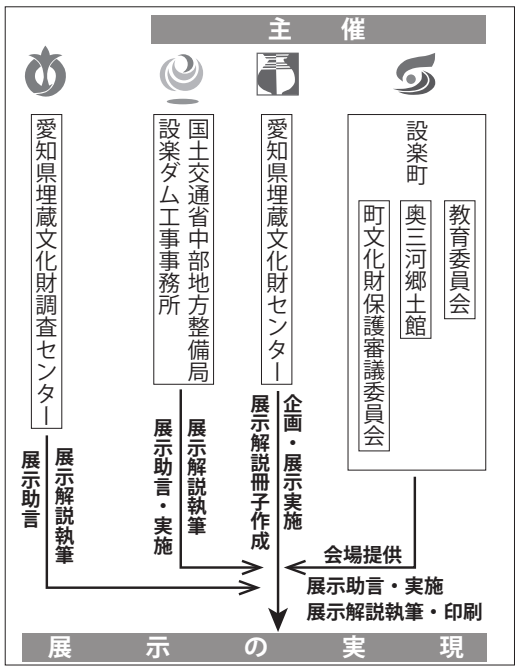
5.関連イベント

８月31日（水）・９月10日（土）・９月17日（土）・９月24日（土）の四日間、午前11時からと午後２時からの各日２回、埋蔵文化財センター職員による展示解説を実施した。参加者は総計178名である。

6.総括

設楽ダム関連調査では、縄文時代の資料がまとまって見つかっているものの、その歴史的意義などの紹介についてはごく一部に留まった。将来、成果が出揃った時点で普及企画が望まれるところである。

（川添和暁）



令和４年度秋の埋蔵文化財展　実施体制

展示の様子

あいち朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2022」

2022（令和４）年度より、県文化財室の委託事業として、清須市のあいち朝日遺跡ミュージアムにおいて、企画展「あいちの発掘調査2022」を開催した。期間は2023（令和５）年１月21日（土）から３月12日（日）までの44日間（月曜休館）である。

企画展のコンセプトは、愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査成果に加えて、県下市町村の最新調査成果を併せて展示するというものである。

展示する遺跡の調査成果が地域によってばらつかないように、今年度は県下を尾張地区・名古屋地区・知多地区・西三河地区・東三河地区・奥三河地区の６地区に分けて、それぞれの地区から１遺跡ずつを選んだ。

「あいちの発掘調査 2022」チラシ

「あいちの発掘調査 2022」普及本表紙

企画展示室の展示状況

成果報告会１の開催状況

取り上げた遺跡は、
尾張地区―下田南遺跡（稲沢市）、
名古屋地区―史跡断夫山古墳（熱田区）、
知多地区―石丸遺跡（大府市）、
西三河地区―岡島遺跡（西尾市）、
東三河地区―史跡馬越長火塚古墳群（豊橋市）、
奥三河地区―大崎遺跡（設楽町）である。

さらに、あいち朝日遺跡ミュージアムの基本展示と関連性をもたせるために、2019（令和元）年度に愛知県埋蔵文化財センターが行なった朝日遺跡の発掘調査成果を加えている。

なお、展示する発掘調査成果は基本的には前年度（2021年度）を中心としているが、同じ遺跡の過去の調査成果も一部加えた。

来場者数は、2月7日時点で928名である。

会期中に愛知県埋蔵文化財センターの主催で開催したイベントは、
１月22日（日）成果報告会１「三河の遺跡」（ミュージアム研修室、報告：鈴木とよ江氏・社本有弥氏）参加者36名。
２月５日（日）ミニシンポジウム「尾張と東三河の首長墓」（春日公民館、講演：広瀬和雄氏、報告：早野浩二氏・岩原剛氏）参加者128名。
２月26日（日）成果報告会２「尾張の遺跡」（ミュージアム研修室、平松久和氏・島軒満氏）

企画展のパンフレットとは別に、2021（令和３）年度の愛知県内における発掘調査成果の概略をまとめた成果本「あいちの発掘調査2022―近年の発掘調査の概要―」を7,000部印刷し、ミュージアムでの展示ならびに県内の関係諸機関に配布した。

（樋上　昇）

あいち朝日遺跡ミュージアム　ナイトミュージアムへの出店

あいち朝日遺跡ミュージアムでは毎年４回、ミュージアムの認知度を高めるために、子供向けの大規模なイベントを実施している。このうち８月にはナイトミュージアムとして、16時から20時までミュージアムを夜間開放し、ゲームや考古学体験、物販などを行なっている。

愛知県埋蔵文化財センターでは、ミュージアムの指定管理者からの依頼を受け、ミュージアム本館の体験学習室において、べっこう飴による鋳込み体験を実施した。

日時は８月20日（土）の16時からと18時からの２回で、合計で来場者18名が参加し、巴形銅器９個、銅鐸９個を作っていただいた。

（樋上　昇）

べっこう飴による巴形銅器の鋳込み体験

べっこう飴による銅鐸の鋳込み体験

連続歴史講座

目的：愛知県内外の考古学に関する成果などを広く一般県民に公開するための歴史講座を開催する。
場所：愛知県埋蔵文化財調査センター　2階　研修室
時間：いずれも午前10時30分より開催。参加費は無料。

	日時	タイトル	講師	参加人数
第1回	4月9日	尾張中世城館について考える	鈴木正貴	20人
第2回	4月23日	瀬戸市・桑下城跡から考える	武部真木	14人
第3回	5月14日	稲沢市・一色城跡から考える	永井邦仁	19人
第4回	5月28日	清須市・清洲城下町遺跡から考える	蔭山誠一・鬼頭剛・鈴木正貴	15人

例年5月から6月にかけて実施しているが、本年度は施設全体の長寿命化工事による6月からの閉館に対応するため4月から5月にかけて4回開催した。本年度の連続歴史講座は「尾張中世城館の考古学」というテーマであった。新型コロナウィルス感染防止対策を講じた上、参加者の方にはマスクの着用、検温、アルコールによる手指の消毒の実施、ソーシャルディスタンスを保つため座席の空間を空けて聴講をお願いした。「城」という参加者にも馴染みのあるテーマであったためか、各回とも講師への熱心な質問が見られた。昨年と同様、コロナ禍にも関わらず多くの方々にご参加をいただき、講座を無事実施することができた。（鬼頭　剛）

栄中日文化センター協力講座

上半期は４月19日・５月17日・６月21日の毎月第3火曜日で、テーマは『「史跡 断夫山古墳」を解き明かす』として実施した。

「史跡 断夫山古墳」は3,000基以上ある愛知県の古墳の頂点に君臨する。「あゆち潟」の覇者にふさわしいその偉大な姿から、古墳は熱田神宮とミヤズヒメの伝説、『古事記』や『日本書紀』に登場する尾張連との関連が常に注目されてきた。

尾張の古代史を語る上で欠かせないこの古墳に、令和になってようやく発掘調査の第一歩が記されることになった。本講座では断夫山古墳の具体像に様々な角度から迫り、愛知県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査の最新の成果についても紹介した。

４月19日は、「第１講　景観、履歴から読み解く」として、古墳が立地する地形、周辺の遺跡から、古墳の地理上、歴史上の景観を概観した。併せて名の言われ、古墳の沿革を辿り、発掘調査が行われ

るまでの古墳の位置付けに対する理解を深めた。

５月17日は、「第２講　墳丘構造から読み解く」として、墳丘規格、段の築成、造出し、周濠、周堤等、断夫山古墳の墳丘構造を墳丘測量図や後世の地割、関連する他の古墳との比較を通して復元し、それを発掘調査の成果からも検証した。

６月21日は、「第３講　埴輪と須恵器から読み解く」として、過去に採集された埴輪や須恵器に加えて新たに発掘調査で出土した埴輪なども紹介し、その特徴や位置付けを考えた。

参加者は初回が40名、第2・3回が39名であった。

（早野浩二）

下半期は10月18日、11月15日、12月20日の毎月第3火曜日で、テーマは『SDGsの考古学―環境と共生する弥生人』とし、近年急速に進展しつつある縄文時代から現代に至る気候変動の復元研究をベースに、弥生人がそれにどう対応してきたのか、また弥生人の行動が現代に生きる我々にどのような示唆を与えているのかを考えた内容とした。

10月18日は、「環境考古学最前線～気候変動に関わる最新研究」として、年輪酸素同位体比による過去3,000年間の気温の変化と、アルケノンという海洋性植物プランクトンから復元される過去数千年の気温の変化を紹介した。

11月15日は、「濃尾平野の弥生人は、いかに気候変動と立ち向かったのか」とした。最寒冷期であった縄文時代晩期から温暖化に向かう弥生時代中期と、急激に寒冷・湿潤化が進む弥生時代中期末から後期初頭、温暖と寒冷が目まぐるしく入れ替わる弥生時代後期から古墳時代前期のそれぞれの時期に、濃尾平野に暮らした人々がどのようにその変化に適応していったのかを解説した。

12月20日は、「木材資源と弥生人～資源を枯渇させないための創意工夫」とした。もともと木材資源が乏しい濃尾平野低地部において、他地域との木材流通網を作り上げつつ、集落の周辺には里山的環境を形成し、無駄のない木材利用を確立していった弥生人の姿を示した。

各回とも参加者は15名であった。　（樋上 昇）

愛知県生涯学習推進センター協力講座

愛知県埋蔵文化財センターと愛知県生涯学習推進センターの協力講座として、木村有作を講師とし、一般の方々を対象とした講座を実施した。１回目に講義、２回目に現地学習を行った。参加者数は各回22 名で、受付等は生涯学習推進センターが行った。（堀木真美子）

11 月 9 日（水） 13:30 ～ 15:00　講義「あゆち潟とあつたの古墳」会場：愛知県教育会館３階教室
11 月 16 日（水）13:30 ～ 15:00　現地学習「断夫山古墳とその周辺遺跡をめぐる」
会場：断夫山古墳、白鳥古墳ほか

【募集チラシ】

【現地学習配布資料】

【断夫山古墳での説明風景】

【夜寒町での説明風景】

第11回 考古学セミナー「あいちの考古学2022」

概要：　考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内および近隣地域で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人(NPO)、研究グループ、関連企業などが一堂に会して遺跡調査と考古学に関係する研究成果を広く一般に公開し情報を共有することを目的に、平成24年度より開催している。

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、講堂で行われるシンポジウムとプレゼンテーションに関しては、事前予約制(各日100名まで)として実施した。　(河嶋優輝)

主　催　　名古屋市博物館・愛知県埋蔵文化財センター
日　時　　10月22日(土)13時～16時
　　10月23日(日)10時～16時
会　場　　名古屋市博物館　講堂・展示説明室
参加者数　　10月22(土) 152名・23日(日) 181名　合計333名
出展団体・個人　プレゼンテーション9、ポスターセッション16(エントリー制)

◎10月22日(土)13時～16時(12時30分開場)
13:00～13:10　開会あいさつ
＜シンポジウム＞『古代あいちの流通と交通』
13:10～14:10　「古代の東海地方の流通と交通」
　　近江俊秀(文化庁文化財第二課)
14:10～14:20　小休憩
14:20～14:25　「趣旨説明」
　　河嶋優輝(愛知県埋蔵文化財センター)
14:25～14:45　「集落の変遷からみた古代のあいち」
　　永井邦仁(愛知県埋蔵文化財センター)
14:45～15:05　「寺院の展開からみた古代のあいち」
　　梶原義実(名古屋大学)
15:05～15:25　「古代あいちにおける土師器甕の分布と流通
　　尾崎綾亮（愛知県埋蔵文化財調査センター）
15:25～15:35　小休憩
15:35～16:00　パネルディスカッション
　　近江俊秀・永井邦仁・梶原義実・尾崎綾亮・河嶋優輝（司会）
　　16:00　２日目の案内

◎10月23日(日)10時～16時(9時30分開場)
10:00～10:10　2日目日程・連絡
＜プレゼンテーション＞
10:10～10:30　「曽我遺跡・墓ノ本遺跡土壌洗浄業務」
　　白樫　淳(株式会社 アコード)
10:30～11:00　「先史時代人の行動復元2―川向東貝津遺跡ではどんな石が使われた?―」
　　神取龍生・平井義敏・田中　良・野村啓輔・
　　松田莉歩・加藤大智・飯塚寿音（東海石器研究会）
11:00～11:10　小休憩
11:10～11:30　「愛知県新城市萩平遺跡の発掘成果」
　　杉山歩夢・遠矢　仁（愛知学院大学大学院）
11:30～11:50　「史跡 馬越長火塚古墳群の発掘調査」
　　岩原　剛（豊橋市文化財センター）
11:50～12:00　宣伝タイム

12:00～13:30　昼休憩

13:30～14:00　「古湊を介した尾張産窯業製品の遠隔流通―琵琶湖湖底遺跡の水中考古学調査を事例に―」
　中川　永（豊橋市美術博物館）

14:00～14:20　「東海地域の角杯と皮袋形瓶について」
　陳　永強（名古屋大学大学院）

14:20～14:30　小休憩

14:30～14:50　「壬申の乱1350年、久留倍官衙遺跡を紹介します」
　大原涼子（くるべ古代歴史館）

14:50～15:10　「中世猿投窯の特殊品生産―瓦を中心として―」
　寺井崇浩（愛知学院大学大学院）

15:10～15:30　「犬山城大手門枡形跡(犬山市福祉会館跡地）発掘調査」
　中野拳弥（犬山市教育委員会）

15:30　閉会あいさつ

＜ポスターセッション＞

「曽我遺跡・墓ノ本遺跡土壌洗浄業務」
　白樫　淳（株式会社アコード）

「先史時代人の行動復元2―川向東貝津遺跡ではどんな石が使われた?―」
　神取龍生・平井義敏・田中　良・野村啓輔・松田莉歩・加藤大智・飯塚寿音（東海石器研究会）

「古湊を介した尾張産窯業製品の遠隔流通」
　中川　永（豊橋市美術博物館）

「東海地域の角杯と皮袋形瓶について」
　陳　永強（名古屋大学大学院）

「壬申の乱1350年、久留倍官衙遺跡を紹介します」
　大原涼子・大野路彦（くるべ古代歴史館）

「設楽町 設楽ダム事業に伴う発掘調査2022」
　愛知県埋蔵文化財センター

「伊川津貝塚・吉胡貝塚出土遺物の赤色顔料分析について」
　清水俊輝（田原市教育委員会）

「みてみよう、さわってみよう、ヒトの骨」
　藤田　尚（株式会社パレオ・ラボ）

「西尾市佐久島 平古１・２号墳の調査」
　三田敦司・浅岡　優（西尾市教育委員会）

「文化財調査における新技術の紹介」
　山田哲也（株式会社イビソク）

「岐阜県御嵩町願興寺の発掘調査」
　秋松大允・浅井飛音（名古屋大学）

「古代の鈴鹿　国府・国分寺」
　吉田真由美（鈴鹿市考古博物館）

「3Dモデルを用いた、遺構・遺物のデジタル実測支援について」
　加藤　達（株式会社CUBIC）

「犬山焼調査報告―近代犬山焼の窯元について―」
　青木　修・佐久間真子・井上あゆこ・中野耕司・鈴木智恵(犬山焼ミュージアム）

「尾張名古屋博物会目録に描かれた考古遺物―銅鏡を中心として―」
　高尾将矢（株式会社ノガミ）

「安城市内の発掘調査成果」
　安城市埋蔵文化財センター

「図書情報」
　考古学フォーラム・東海石器研究会・三河考古学談話会

▲告知チラシ・当日配布資料集

▲シンポジウム・プレゼンテーション会場入口

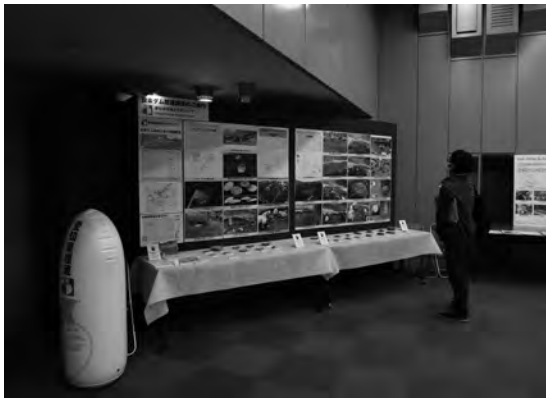
▲シンポジウム・近江俊秀氏の講演

▲シンポジウム・パネルディスカッション

▲プレゼンテーション

▲ポスターセッション会場（入り口から）

▲ポスターセッション会場（奥から）



▲ポスターセッション会場（展示の様子）